



第6回 最古最大のハニワ工房

―新池埴輪製作遺跡の調査―

講師：森田克行氏

（高槻市文化財アドバイザー）

（講師は、市史編纂委員会助手時代に現地を探訪し、ハニワ片を採取されたとのこと）

日時：5月23日 午前10時～12時

場所：高槻教室（高槻センター街ビル内）

講義内容 1 新池遺跡の立地と調査成果

（抜粋）

- ・三島地域にある奈佐原丘陵の西尾根筋に存在
- ・1952年郷土史家が発見、1988年9月～1990年5月に本調査を実施。
- ・埴輪生産関連遺構は、埴輪窯18基、大規模工房3棟、工人集落などで3期に分類

A期(5世紀中頃) 太田茶臼山古墳に埴輪類を供給

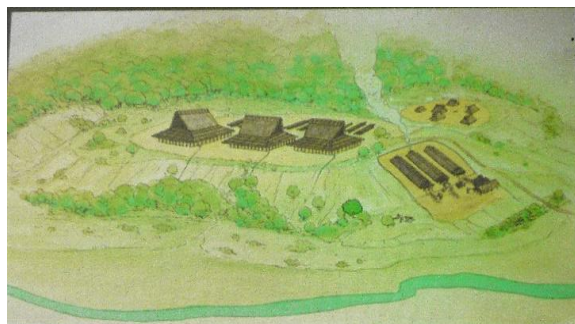
B期(5世紀後半) 二子山古墳、番山古墳などに供給

C期(6世紀前半～中頃) 今城塚、昼神車塚などに供給

- ・太田茶臼山古墳の築造を契機に開設し、その後今城塚古墳を含む三島地域の諸古墳に埴輪を供給していた。
- ・畿内における、「複数窯長期型」の大規模埴輪生産システムの典型例
- ・大和王権直属の官営埴輪工場の実態を知る重要な遺跡
- ・任那と新羅の戦争の結果、日本に残留せざるを得なかった新羅の埴輪製作専門集団が埴輪生産を担っていたと思われる。

2 史跡指定と整備

- ・1991年7月に史跡指定
- ・1992年～文化庁「ふるさと歴史の広場」を実施、埴輪窯、工房の復元展示や「ハニワ工場館」、復元埴輪を展示したプロムナードを設置し、一般に公開
- ・一帯を史跡公園化して30年、年15～18千人、2024年3月末時点累計435千人の利用者があった。



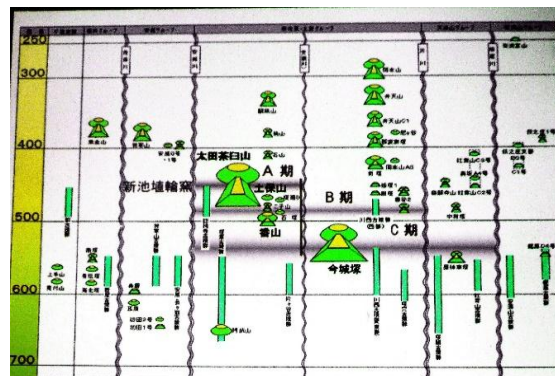
A期のa群埴輪窯、工房群、工人集落(5世紀中頃)



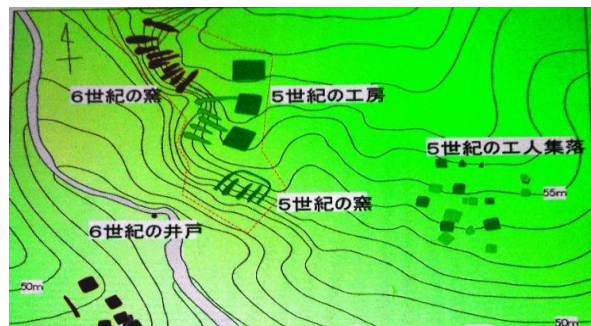
A群ハニワ窯



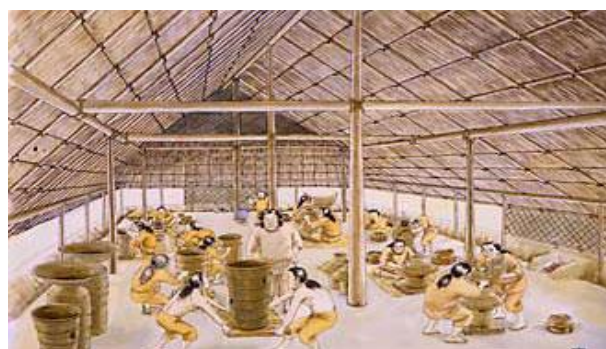
工房レプリカ



ハニワ年代表 (太田茶臼山は今城塚の半世紀前)



C群ハニワ窯 (室内)



工房作業風景 (想像図)



埴輪道跡から西南方向に太田茶臼山古墳を望む

(※ 講義スライドより)

郷土史家の発見以来、長い年月をかけて発掘・整備、今日の姿に至る講師の努力は考古学者としては勿論のこと、土地の買収、関係官庁との交渉、環境に配慮した史跡公園の設置など、穏やかな語り口の中に、執念と情熱がほとばしる講義でした。

受講生の「今日のひとこと」（一部変更）

- 新池遺跡の発掘成果が、継体期の歴史の解明に大きな貢献をしていることが分かった。（遺物が出た用地を提供した）鉄道会社の貢献も大きいと思う。
- ハニワ遺跡の調査の経緯、保存のためのご苦勞がよく理解できました。
- 埴輪生産体制の変化から、その時代の変化が窺える事が面白い。

今年度の「班活動計画」の検討



午後には各班に分かれ、今年1年間どのようなことに取り組むかをディスカッションしました。

活発な意見交換の結果、三つの班がテーマを決定。

決定に至らなかった班は、来週に持ち越すことになりました。

（4班広報）